

洪水ハザードマップの見方

浸水が想定される区域と深さ

作成時点における一ツ瀬川の河道の整備状況をもとに概ね70年に1回程度起こる大雨が降った事により一ツ瀬川がはん濫した場合を想定して、浸水が予想される区域と、浸水の深さを表しています。

大雨のときの危険箇所

長時間に亘る降雨は、住宅の周りの山林にも浸透し、山崩れやガケ崩れ、地すべり等を引き起こす原因ともなります。

浸水想定区域 浸水深の色の見方

	浸水が0.5m 未満の区域
	浸水が0.5～1.0m 未満の区域
	浸水が1.0～2.0m 未満の区域
	浸水が2.0～5.0m 未満の区域
	河川等範囲

凡 例

	土石流危険箇所
	地すべり危険箇所
	急傾斜地崩壊危険箇所
	避難所



浸水想定区域図の着色について

- ① 一ツ瀬川上流の水位情報周知区間について、水防法の規定により指定された浸水想定区域とその区域が浸水した場合に想定される水深を示したものです。
- ② この浸水想定区域等は、指定時点の一ツ瀬川の河道の整備状況等を考え合わせて、洪水防御に関する計画の基本となる降雨である、概ね70年に1回程度起こる大雨が降ったことにより、一ツ瀬川がはん濫した場合に想定される浸水の状況をシミュレーションにより求めたものです。
- ③ シミュレーションの実施にあたっては、支流のはん濫、想定を超える降雨、内水によるはん濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

作成主体：宮崎県西都土木事務所

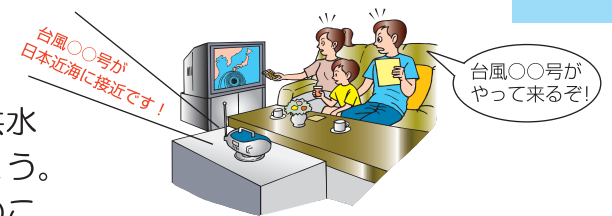
指定年月日：平成19年6月21日

指定の前提となる、計画の基本となる降雨：一ツ瀬川流域の2日間総雨量 600mm

* 水位情報周知区間とは、特別警戒水位に対する水位の到達情報を通知、または周知する区間をいいます。

台風への備え

梅雨期から台風シーズンに集中して起こる風水害・洪水の被害に対し、家庭での災害への備えを見直しましょう。また台風や豪雨などの情報に注意するのはもちろんのこと、日常の気象の変化にも十分注意をはらいましょう。



平均風速(毎秒)	どんな様子？
10～15m	風に向かって歩にくい。看板やトタン板が飛ぶ
15～20m	歩くことができない。高速道路での運転は困難
20～25m	身体を固定しないと転倒する。車の運転は危険
25～30m	立ってられない。木が倒れブロック塀が壊れる危険あり
30m以上	屋根が飛ばされたり木造住宅の全壊が始まる危険あり

階 級	最 大 風 速
強い	秒速33m以上 44m未満
非常に強い	秒速44m以上 54m未満
猛烈な	秒速54m以上

階 級	風速15m/s以上の半径
大 型 (大きい)	500km以上 ～800km未満
超 大 型 (非常に大きい)	800km以上

(気象庁HPより)

注意報や警報はどんな基準で、出されるのでしょうか



種 類	発表の基準	該当する条件
注 意 報	大雨又は洪水によって災害が起こるおそれがあると予想される場合	1時間雨量 30mm以上 3時間雨量 60mm以上 24時間雨量 100mm以上
警 報	大雨又は洪水によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合	1時間雨量 60mm以上 3時間雨量 100mm以上 24時間雨量 200mm以上
記録的短時間大雨情報		1時間110mm以上の記録的短時間大雨を観測した場合

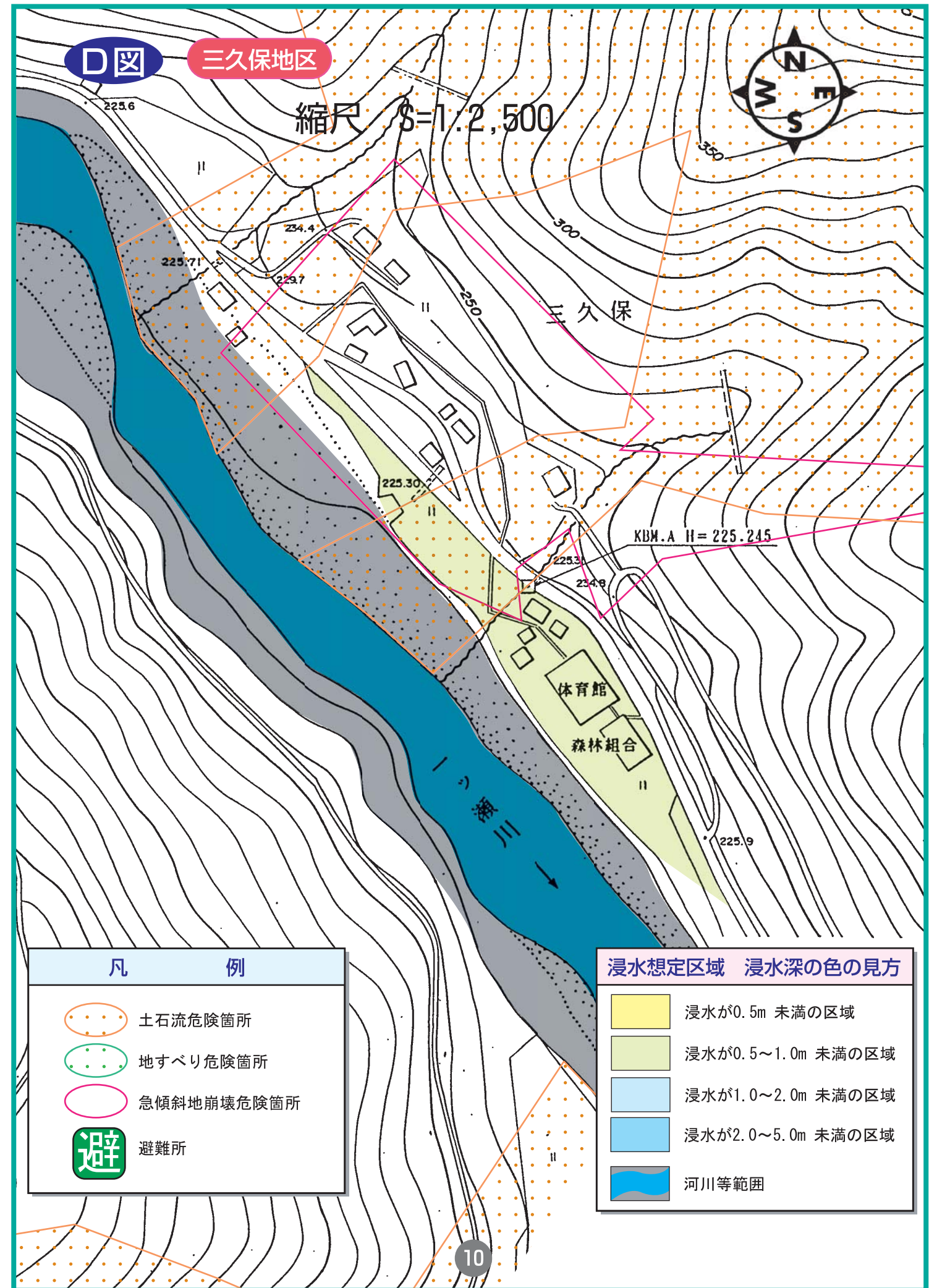
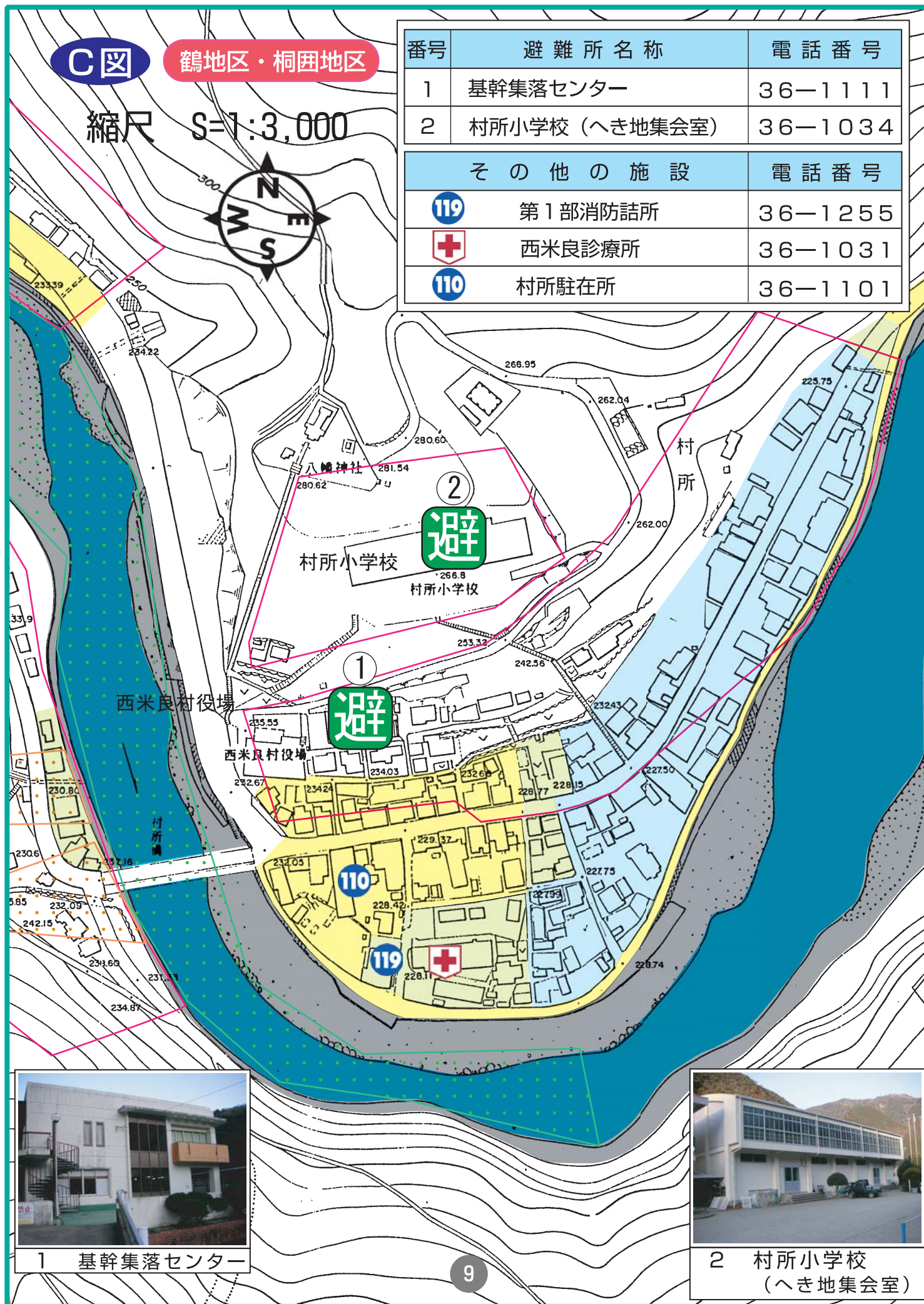
(宮崎地方気象台における注意報・警報等の基準より)

雨の降りかたに、注意しましょう

洪水の原因は雨です。早めに安全な避難所へ向かうためにも、みなさんで雨の降りかたを観察してみましょう。

1時間雨量(mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内での様子(木造家屋)	屋外での様子	車に乗っていて	災害発生状況
10～20	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元が濡れる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水溜りができる		長く続くときは注意が必要
20～30	強い雨	どしゃ降り	傘を差していても濡れる			ワイパーを速くしても見づらい	側溝や小さな川が溢れ小規模のがけ崩れが始まる
30～50	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る		震えている人の半数位が雨に気がつく	道路が川のようになる	高速走行時ブレーキが効かなくなることがある	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要
50～80	非常に激しい雨	滝のように降る			水しぶきであたり一面が白っぽくなり視界が悪くなる		土石流が起こりやすい多くの災害が発生する
80以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感、恐怖感を感じる	傘は全く役に立たなくなる			車の運転は危険	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く厳重な警戒が必要

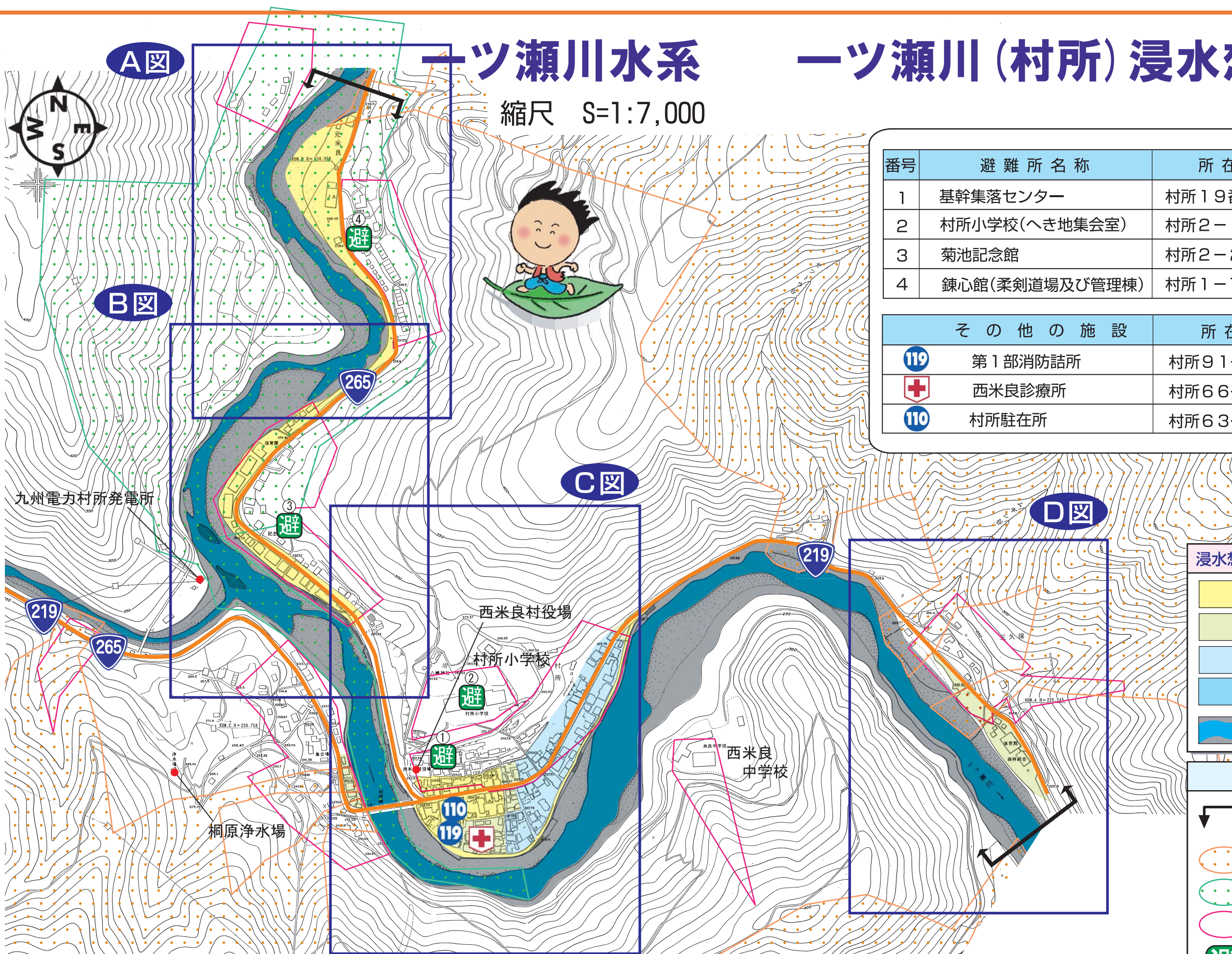
この表はあくまでも一般的な表現であって、地域によっては異なる場合があります。(気象庁HPより)



一ツ瀬川水系

縮尺 S=1:7,000

一ツ瀬川(村所)浸水想定区域図



番号	避難所名称	所在地	電話番号
1	基幹集落センター	村所19番地	36-1111
2	村所小学校(へき地集会室)	村所2-1番地	36-1034
3	菊池記念館	村所2-2番地	36-1020
4	錬心館(柔剣道場及び管理棟)	村所1-7番地	36-1622

その他の施設	所在地	電話番号
119 第1部消防詰所	村所91-15番地	36-1255
西米良診療所	村所66-1番地	36-1031
110 村所駐在所	村所63-18番地	36-1101

浸水想定区域 浸水深の色の見方

	浸水が0.5m 未満の区域
	浸水が0.5~1.0m 未満の区域
	浸水が1.0~2.0m 未満の区域
	浸水が2.0~5.0m 未満の区域
	河川等範囲

凡 例

- 浸水想定区域の指定の対象となる水位情報周知河川の範囲
- 土石流危険箇所
- 地すべり危険箇所
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 避難所

日頃の準備で、万ーに備えよう

非常時の役割分担や、連絡方法、避難時における非常持出品の準備と避難所の確認など日頃から家族で話し合い、決めておきましょう。
また、台風や大雨で洪水の危険性があるときは次のような備えをしておきましょう。

- 台風情報やオフトーク放送を注意深く聞く
- むやみに外出しない
- 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオの準備
- 避難に備えて貴重品などの非常持ち出し品の準備
- 断水などの恐れがあるため、飲料水や生活水の確保（ペットボトルや風呂釜に水をためる）
- 病人や乳幼児、障がい者などを安全な場所へ
.....

災害時で最も危険なことは、根拠のないデマや情報にまどわされることです。
公共機関から発信される各種の情報をキャッチして、冷静に行動してください。

呼びかけ

みなさんの行動

避難準備 (自主避難)

避難の準備を整え、ラジオやテレビの放送にも絶えず注意を払ってください。お年寄りや子供は、この段階で避難所に避難させましょう。

避難勧告

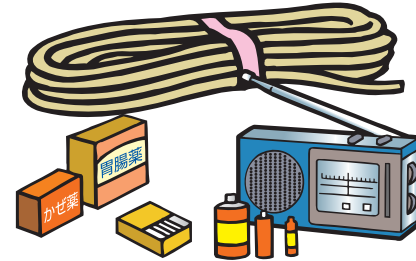
家族、近所で助け合いながら、指定された避難所にすみやかに避難を始めましょう。

避難指示 (命令)

危険がまづかに迫っています。
一刻も早く避難所へ避難してください。



非常持出し袋に入れておくもの



ラジオ・懐中電灯・電池・ロープ・ライター・マッチ・飲料水・食料・着替え用の下着（保温性の高いもの）
薬品（カットバン、クスリ等）

家族構成に応じて準備するもの



- ＜赤ちゃんのいる家庭＞
紙おむつ・ミルク・ほ乳びん等
- ＜高齢者、病人のいる家庭＞
常備薬・介護用品等
- ＜その他＞
生理用品

避難するときに必要なもの



洪水避難地図・タオル・杖や長い棒・軍手・貴重品・現金・印鑑・ビニールカップ・携帯電話等・充電器

その他あれば便利なもの

缶詰・携帯用の缶切りやナイフ・毛布・ビニール袋・タオル・バスタオル等

安全に避難するために

高齢者や乳幼児、小学生、身体の不自由な方など、災害時に自力で避難することが困難な方には、日頃から積極的にコミュニケーションを図って、万一のときもみんなで協力しましょう。

- 警戒警報・避難命令などには、速やかに従いましょう。
- 避難するときは、単独で行動せず、みんなと一緒に動きましょう。
- 持ち出す荷物は必要最小限にしましょう。（2～3日分程度）
- お年寄りや子供を優先して避難させましょう。

高齢者の方は
背負って
すばやい避難を



みんなで協力して
早めの避難

身体の不自由な方には
手を添えて



水位に注意

はん濫危険水位（危険水位）	6.3m
避難判断水位（特別警戒水位）	5.3m
はん濫注意水位（警戒水位）	4.5m
水防団待機水位（通報・指定水位）	3.8m

水防団待機水位（3.8m）を超えたときには、
避難準備をしましょう！

堤防



村所橋の水位計

